

(報告書様式C)

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書書式】(小学校用)

都道府県名	愛 知 県
-------	-------

学校名及び規模(平成15年4月現在)

碧 南 市 立 新 川 小 学 校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊	計	教員数	
学級数	4	4	4	4	4	4	2	26	36	
児童数	135	153	130	149	150	147	5	869		

研究の概要

1. 研究主題

『学ぶ力を育む授業』

～多様な学び方(学習技能)を身につけた子の育成をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

本校では、平成7年度より社会科と生活科での授業づくりを研究してきた。平成11年度からは「食」を中心にした総合的な学習と生活科の授業研究に取り組んできた。その研究成果をふまえ、全学年で取り組んでいる。

- ・ 生活科(1, 2年)総合的な学習(3~6年)
- ・ 算数科(少人数指導 1, 3, 4, 5年)
- ・ 基礎トレーニングタイム(全学年)

(2) 年次ごとの計画

テーマ

『学ぶ力を育む授業』

～多様な学び方(学習技能)を身につけた子の育成をめざして～

研究の見通し

子どもたちが身につける学力を「読み書き計算」の力だけでなく、これからの世の中では「生きて働く力」が必要であると考えた。自分にとって、今何がはてな?(問題)なのかをしっかりと意識して、それをいろいろな方法や角度から調べ、考えて解決していく力が必要である。これが「生きて働く力」であると考えた。はてな?(問題)を解決することは、何らかの知識を獲得することであり、獲得する過程で学び方(学習技能)が身についていくのである。そのように考えると、学力は次のようになる。

学 力 = 学 び 方 (学 習 技 能) + 知 識 + 応 用 力

この学力をどのような指導、授業を展開していけば、子どもたちに身につけさせることができるかを研究していくことにした。

研究の内容・方法

本校の考える学力を身につけさせるために、4つの具体的な手だてを考えた。

(1) 学び方(学習技能)系統表を使って

学び方(学習技能)を身につけさせるために、「はてな?発見力」「考え、判断する力」「多様な調べをする力」「多様な表現をする力」の4つの力が必要であると考えた。この4つの力が総合的に働くことによって「生きて働く力」になる。そのために、この4つの力を低・中・高学年と段階を追って指導していくための「学び方(学習技能)系統表」を設定し、授業のどの場面でどの力に重点をおくかを考えて実践をすすめている。

(2) 「はてな帳」の活用

授業と授業の間に子どもたちがはてな?(問題)をいろいろな方法で追究してくる。その結果をその子なりにまとめさせるために「はてな帳」を書かせ、4つの力を身につけさせるための一つの手だてとしている。

(3) 少人数指導(算数科)の実施

「学び方(学習技能)」の4つの力を支える力として、「聞く力」「書く力」「話す力」「調べる力」「考える力」の5つを設定し、各教科を中心に高めていこうと考えている。その手だてとして算数科で少人数指導(1, 3, 4, 5年)を実施している。

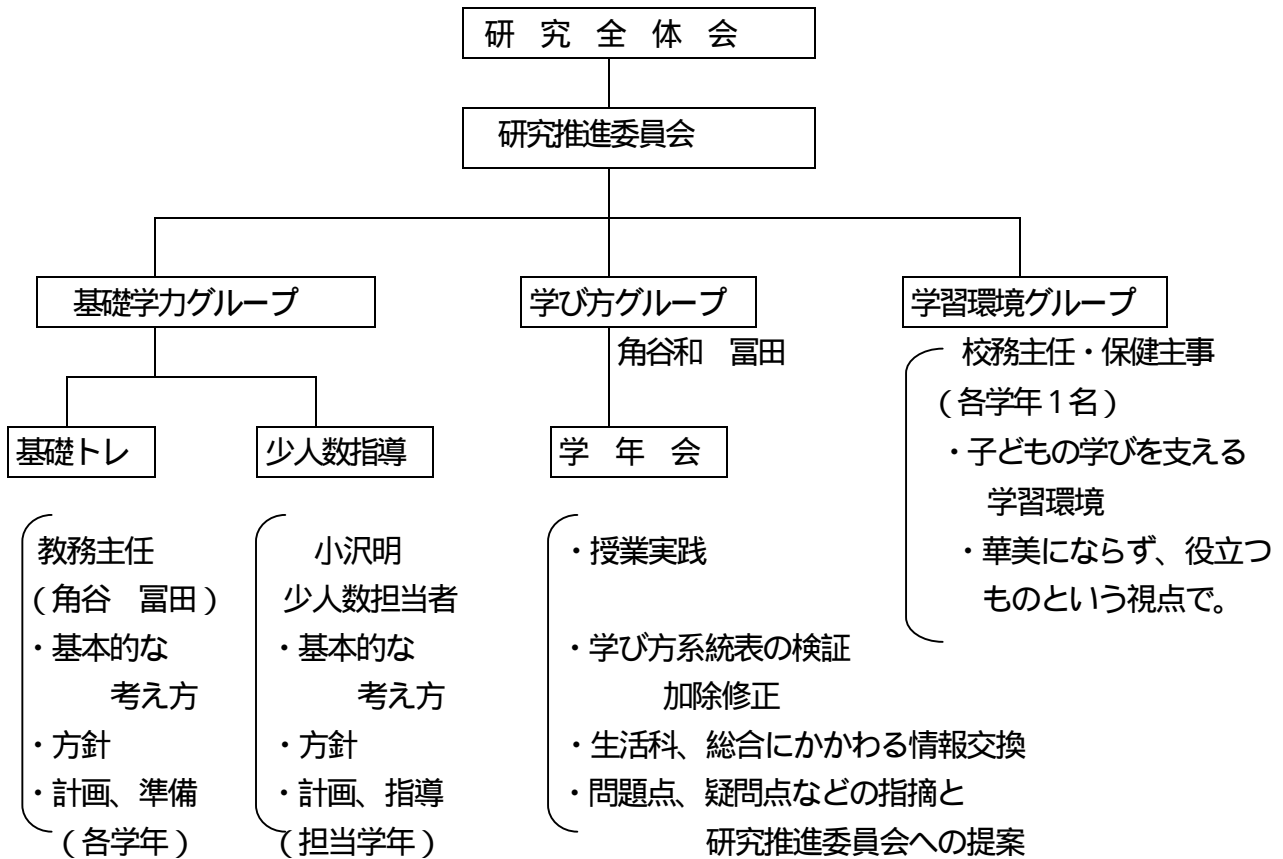
(4) 基礎トレーニングタイムの設定

3年以上の学級で「わかる・できる喜び」を子どもたちに味わわせ、学ぶ意欲を高めることをねらいに、毎週火曜日6校時に時間を設定し、算数の問題を中心に実施している。

1, 2年は、朝の学習の時間や帰りの会の中で週に2回ほど基本的な計算問題に取り組んでいる。

平 成 16 年 度	<p>テーマ 『学ぶ力を育む授業』 ～多様な学び方(学習技能)を身につけた子の育成をめざして～</p> <p>研究の見通し (1) 「学び方(学習技能)系統表」について 今年度の実践をふまえて検証し、加除修正を加えてより有効な系統表を作成し、それをもとに授業実践をすすめていく。また、一つひとつの力についての具体的な手だてを考え、検証していく。</p> <p>(2) 「はてな帳」の活用について 子どもたちの学び方を支える「はてな帳」の効果的な取り組ませ方、よりよい追究をさせるための教師支援のあり方を究明していく。</p> <p>(3) 少人数指導(算数科)について 今年度半ばから開始した習熟度別授業の一層の効果的な指導法、教具の開発をすすめていく。</p> <p>(4) 基礎トレーニングタイム 「わかる・できる喜び」を多くの子どもたちに味わわせ、より学習意欲を高めていくための教材のあり方や指導法、指導体制などを考えていく。</p>
------------------------	--

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

「学び方（学習技能）系統表」をもとに授業実践をすすめ、子どもたちに4つの力が徐々につき、その子なりの学び方で学習をすすめている場面を多く見ることができた。それは、一つひとつの力を身につけさせるための指導法や手だてがはっきりしてきたからであると考えている。この力を身につけさせるには、こんな指導法がよいといったことが明らかになりつつある。

授業では、子ども一人ひとりが自分の追究をまとめる「はてな帳」により、はてな？（問題）についての深め合い、みがき合いが多く見られるようになっている。それにより、子どもたちは自分なりの追究に自信を持ち始め、追究意欲を高めている。「はてな帳」が4つの力を身につけさせるのに有効な手だてであることが明らかになってきた。

また、4つの力を身につけさせるために、「食文化」にかかわるいろいろな教材を開発し、教材開発がすすんだ。子どもたちの意欲を引き出すのに有効な教材も数多く開発することができた。

算数科での少人数指導では、3，4，5年は9月から1学級を2つに分けて習熟度別に実施している。子ども、保護者へのアンケートを実施し、要望や成果などをまとめることができた。また、少人数指導の授業参観を12月に実施した。

基礎トレーニングタイムでは、各学年で算数科の計算問題を中心に問題づくりをし、それをボックスに保管し、いつでも使用できるようにした。

2. 今後の課題

「学び方（学習技能）系統表」をもとに授業実践をすすめてきたが、系統表に設定した力を身につけさせるための具体的な指導法や手だてが、明らかになされていない部分も多く見られる。そこを明らかにすることができれば、一層子どもたちの力を高めることができるのではないかと考えている。「学び方（学習技能）系統表」の検証とそれに基づいての加除修正が必要である。

子どもたちが一生懸命にはてな？（問題）を追究してまとめてくる「はてな帳」のより効果的な取り組みせ方、教師の支援の仕方を考えていくことも急務である。

また、今年度数多くの教材を開発したが、単元の構成上で広がりのある教材までにできなかった。教材として取り上げた食文化の追究だけにとどまらず、そこから健康や福祉、国際理解などの領域に広げていかななくては、しっかりした力を子どもたちに身につけさせることにつながらないということが明らかになってきた。今後は、教師がそのような単元構成を立てていく力を身につけるとともに、4つの力を身につけさせていくのにどのような手だてやどんな指導法が有効なのかを、より明らかにしていく必要があると考えている。

少人数指導では、習熟度別クラスの単元ごとの学習内容について、子どもの実態にあったものとするように検討していく必要があると考えている。

3. 学力把握のための学校としての取組

本校が取り組んでいる総合的な学習と生活科では、算数科のように客観的に学力を評価することは難しい。そこで、本校独自の「学び方（学習技能）系統表」を使って子どもたちの学力をとらえていこうと考えている。

単元を構成するときには、その単元全体では4つの力すべてを子どもたちに身につけさせようと計画するが、その単元の中の数時間のまとめり（小単元）では、この力を重点的に指導していこうと考えたり、1時間の授業では、この力をねらって授業を展開しようと考えたりしてすすめている。

小単元での子どもの変容や、1時間の授業の様子をふりかえって、どのような指導法や手だてが有効かを探っている。より効果的な指導と評価の一体化をめざしている。

4. フロンティアスクールとしての研究成果の普及

今年度は、実践した授業をもとに全学年の「学び方（学習技能）系統表」を具体的に検証し、研究1年次のまとめを作成し、配布する予定である。また、来年度は、10月下旬にこれまでの研究成果を公開する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無